

E-DREAMS

No. 11 発行:2001.4.15 [特定非営利活動法人 イー・ドリームズ] 通信

「東書・共同プロジェクト」に着手！

3月24日、東京において第5回理事会を開催しました。というのも、e-dream-sの最優先事業として進めてきた「写真アーカイブ事業」に関して新たな展開があり、理事会の論議が必要になったからです。今回の理事会で決定されたのは、「写真アーカイブ事業」と平行して、教科書会社である東京書籍への写真（キャプション付）の提供（販売）を行うことです。既に東書側とは、基本的な部分で合意を得ています。

企業との共同作業は、e-dream-sにとっては新たな展開となります。教科書、教育という公共の利益に関わるとはいえ、営利を目的とする企業との事業は、これからのe-dream-sの活動にプラスになるに違いないと思います。これからすぐに契約書を結び、具体的な作業に入っていきます。今まで行ったアジアを中心とするツアーの写真を整理しておいて下さい。

私たちとお金の間柄

辻 莊 一

根が謙虚な質なので、こういった文章はいつも自戒の念を込めて書いているのだが、今回はとくに自戒の念を超込めて書いてみたい。

「旅の恥は掻き捨て」というわけではないけれど、海外旅行ではよく値切る。物価が安い国では特に値切る必要はないのだが、とりあえず値切る。どうせ旅行者向けに高い値段をつけているのだから値切るのが当たり前だという感覚もある。要するにゲームみたいなものだ。

ところが、日本ではまあ値切らない。だいたい日本では、値切る交渉のできる店は限られているし、スーパーマーケットで値切ったら頭が変だと思われるだけだ。しかし、値切ることが可能な場合でも、その交渉をするのが面倒くさい、とか何だか嫌だ、下品だと言う感覚がある。個人差はあるが、根底にはお金のことを細かくあれこれというのが、恥ずかしいという感覚がある

だから、非日常である海外では良心の呵責なく値切れるのだ。

私たちは一般にお金のことをいろいろ考えたり口に出したりするのを避ける傾向があるし、e-dream-s

の会員の多くを占める教師は、特に金のことに疎いし、あるいはよしとしない向きがある。親方日の丸公務員だからというのも大きな要素だが、単なる知識とか技術ではなくて何かお金より大切なものを教えるのが教育だという考えが教師の中であって、お金のことを考えるのを邪魔しているということもある。

言ってみれば「お金」は「生殖器」のようなものである。大事なものだけど人のものをあれこれ詮索したり、自分のものを人前で自慢したりすると下品だし。しかし、私たちが生殖器抜きでは困ると同様、世の中お金抜きではまわらない、というのも事実である。

法人としてのNPOは「経営」しなければならない。いくら非営利団体でも赤字続きでは話にならない。いくら高邁な理想があっても、会員の持ち出しや手弁当に全面的に頼っているようでは、長続きするわけではない。

金のことに汚くなれとか、金が全てだというわけではない。金の流れをしっかりと見つめることを億劫がっているのは、NPOとして活動を続け、綺麗なお金の使い方をするには出来ないのということだ。

現在フォトアーカイブのことで東京書籍との話が進んでいるが、これもお金の話し抜きでは始まらない。e-dream-s の理想の実現のために重要な事業であることはもちろん、「経営」という概念がはじめて身に沁みる、またとない学習の機会でもある。そして、それは私たちとお金の間柄を考え直すと言うことである。

クリーブランドは、春の雪

井川 好二

「クリ-ブランドのダウンタウンは雪！道路が凍っちゃったわけじゃなし、もちろん、まだまだ走れるけど、White out！この吹雪じゃ50フィート先も見えやしない。今、ダウンタウンをクルージングしている君たち、視界不良なんだから、時速60マイルなんて出しちゃダメだぜ。あっという間に、誰かの車に追突ってのは、シャレになんないからね！」

空港のHertzで借りたMustangのカーラジオから、DJが云う。因に、このFM局は、60-70年代のRock'n'Rollばかりやっている。アメリカには、そういう懐かしい曲をたくさんやっているFM局がたくさんあるのだが、「ロックの殿堂」(The Rock and Roll Hall of Fame)のあるここクリーブランドでは、流石に選曲にもDJの喋りにも気合いが入っているように思える。今日は3月25日、日曜日。オハイオ州クリ-ブランドは、春の雪である。

アメリカには何回も来ているし、住んだこともある。しかし、オハイオは始めてで、この吹雪の中、アメリカはやっぱり広いなと実感する。

今回のアメリカ出張では、3都市へ行った。どの街でも、大学関係者とのミーティング。まず西海岸の

サンフランシスコへ、それから東海岸のフィラデルフィア。最後に、このエリー湖の畔にあるクリ・ブランドへやってきた。最初に行ったサンフランシスコは初夏だった。半袖を持ってきていなかったので、慌ててユニオンスクエアのデパートで、Tommy Hilfiger のポロシャツを買ったくらいだ。以前住んだことのあるフィラデルフィアは、予想通りの早春で、持参の Spring Coat を羽織ってちょうど良かった。最後に訪れたクリ・ブランドでは、冬へ逆戻りだ。厚手のコートや手袋が欲しい。カナダに近いからか、湖畔にあるからか、雪もよく降るし、冬が長い。「一年の半分は冬なんだから」、とはこちらに来て誰かが云っていた。

五大湖のひとつエリー湖の水運を利用して、ニューヨークとシカゴの中継地として発達したクリーブランドは、現在人口約 50 万人。製鉄、造船、石油化学工業で発達した大工業都市である。石油王ロックフェラー (John D Rockefeller) がその身代を築いたのもこの街である。1913 年に「赤い羽根共同募金」が始まったのもクリーブランドだそうだ。¹

産業構造の変化、不況の影響、放漫な経営などから、1960 年代、クリーブランド市の財政は赤字に転落し、人種間の対立が激化した。人々は別の都市へ移ったり郊外へ引っ越ししたりして、市の人口が半分近くまで落ち込む。1979 年には、市長が市の破産を宣言した。しかし、1980 年代になると、市の再建に取り組む市民による NPO、“Cleveland Tomorrow” が結成され、官民で様々な努力がなされた結果、素晴らしい復興がなされ、今ではクリーブランドは、“a model for urban rebirth” と呼ばれ、“one of the top 10 international visitor hotspots” に選ばれたりしている。²

「Case に行くんだよね？」

「そう、明日の朝 10 時のアポイントなんやけど…」

「で、どの学部？」

「エエッとね、Mandel Center 云うたかな」

「Mandel Center ね、地図だと、ここだね」

Case Western Reserve University (CWRU) は、クリーブランド市の郊外にある瀟洒な住宅街、Cleveland Heights にある私立大学である。数ある東部の大学の中でも、真っ当だと定評があり、理工系や医系の学部も有名だが、MBA (Master of Business Administration) や MNO (Master of Non-Profit Organization) のなどの経営系の学部でも、独特の立場を築いている。U.S. News & Report 誌³が毎年出している、全米大学院のランキングでも、NPO のマネジメントの分野で、Harvard や Stanford などの超名門校に伍して、今年度も 5 位と健闘している。Mandel Center は、その NPO 系マネジメントの拠点である⁴。Cleveland Tomorrow の事務局長をしていた Richard Shatten 氏も教授として、新しい NPO 人材の育成に携わっている。

泊まっているホテルは、大学の近所にある The Alcazar Hotel⁵。地上 5 階地下 1 階で、創業は 1923 年。新築当時はお洒落だったろう変型 5 角形の建物。噴水のある中庭が美しい。築 80 年近く経った今とな

¹ <http://www2.justnet.ne.jp/assoonas/UC202.HTML> 参照

² <http://www.cleveland.oh.us/>参照

³ <http://www.usnews.com/usnews/edu/beyond/bcrank.htm> 参照

⁴ <http://www.cwru.edu/mandelcenter/Pages/MNOstruc.html>

⁵ <http://www.travelcleveland.com/visiting/hotels/index.html>

っては、老朽化が目立つ。3人載ればもう満員といった狭いエレベーターが、ゆっくり、ゆっくり各階を往復している。日本ならとっくの昔に、建て替えか廃業しているのだろうが。こちらでは、まだまだ現役。かつては、喜劇俳優の Bob Hope や作曲家の Cole Porter が、スイートに長期滞在していたと云う。Porter が名曲 Night & Day を書いたのも、ここのスイートだと云う伝説のホテルである。

「車はこのあたりに停めるんだね」

「けど、この雪じゃ、明日の朝、車で出かけるのは無理みたいやね？」

「大丈夫、No problem!」

「そんなこと云うても、ホテルの前なんか、スキー場みたいねんけど」

地元出身の知り合いに、クリーブランドに行くなら是非ここに泊まれと薦められた。その The Alcazar Hotel のフロントでの会話である。口髭は厳めしいが、笑顔は人なつこい中年白人マネージャーと話している。カウンターの奥にある事務所から微かに Jazz が流れてくる。ホテルのフロントでの営業用会話と云うより、友達同士の会話に近い気さくさ。

外出から帰って部屋の鍵を取りに来た、背中が曲がった老婦人が、髭マネージャー氏と、二言三言にこやかに話して去る。

「この位の雪、気にしない、気にしない。みんな運転してるぜ」

「そういうけど…」

「幹線道路の雪は、塩を撒きゃ融けるよ。そりゃ、裏通りはちょっと辛いけどね」

「…」

「でも、クリーブランドでこの位の雪、気にしてちゃ、暮らしてけないよ」

The Alcazar Hotel のパンフレットには、“In 1963 Western Reserve Residences, Inc., a non-profit corporation, purchased The Alcazar primarily to provide housing for independent senior living.” とある。全部で 125 室ある客室の内、90 はキッチン付きの長期滞在型となっていて、主に独身の老人が住んでいる。ロビーにある大きな暖炉の前のソファに、3人の老婦人がまるで猫のように心地よさそうに腰掛けて、ゆったりと新聞や本を読んでいる。

こういう老後も良いかな。ロビーにあるスペイン風の大きな窓から、噴水のある中庭に雪が積もっていくのが見える日曜日。

NPO の活動にも、様々な形態がある。NPO 先進国アメリカには、人々の創意と工夫と情熱で、いろいろな NPO が花咲いている。クリーブランドの3月の雪は冷たいが、春は近い。“a model for urban rebirth”ね。(Saturday, April 14, 2001)

THE ALCAZAR HOTEL PICTURES



1.

ホテル入り口（外から）



2.

ホテル入り口（内から）



3.

ロビーでくつろぐ長期滞在者



4.

ロビー



5.

ダイニングルーム



6.

建築当時のホテル



7.

中庭



8.

ツインの部屋

<http://www.travelcleveland.com/visiting/hotels/index.html>

台所に潤いを！

中川房代

4月になってホッとしたことがある。

それは、職場（学校）での「PTA 会計」の仕事が終わったことだ。

昨年度、私は1年間PTAの役員として、会計をしていた。生徒の保護者と教職員から支払われる毎月のPTA会費の入金、出金の管理。そして、年間2回、適正に会計が執行されているかどうかの「PTA 会計監査委員」による会計監査も行われる。

決算期には中々数字が合わず、単なる金額の転記ミス、と分かるまで、何日も夜遅くまで電卓とにらめっこ、という状態が続いて気が滅入った。

今月から、政府の公文書を対象とした「情報公開法」が施行となり、新聞によると、申請初日の4月2日には、各省庁の窓口を訪ねる「情報公開体験ツアー」も企画され、「情報公開クリアリングハウス」「知る権利ネットワーク関西」など多くのNPOや市民団体が情報公開の申請を行ったそうだ。私の職場のある市では、既に2～3年前から「情報公開条例」が制定され、今まで公開請求のあったもののうち、学校関係では「PTA 会計」に関するものが最も多いらしい。どんな用途に、いくら支出しているのか、繰越金はいくらか、など。そしてそれは適正か、会費の金額は妥当か。そんな事情もあって、別に不正をしている訳ではないのだが、役員や学校の管理職などは、会計に関して「気を使って」いる。

「こんな活動をするから、これだけの金額が必要で、会費はこう使う。」
堂々と言えはいい。でもそれだけではダメで、誰が見ても、納得するものでなければならない。
市民からの請求にビクつくのではなく、こんな PTA 活動をしたい、会費はこんな風に使いたい、
とこちらから積極的に説得していく姿勢が必要な時代になってきていると感じる。

『21 世紀には、NPO がより重要性を増す』と、首相の諮問機関、国民生活審議会の最終報告（4
月 9 日発表）は、うたっている。が、資金不足に悩む団体も多く、安定した財源確保のための
アドバイスとして、（e-dream-s 通信の新聞記事参照、日本経済新聞、2001.4.13）

PR に工夫を

寄付集めはあの手この手で

お金以外にも注目

の 3 つが上げられていた。

e-dream-s を始めとする NPO も、姿勢を明らかにして、もっと社会に打って出ていかなければ、
と思う。今後、いろいろなアイデアを出しつつ、支援者の獲得と財源の確保に努めていきたい。

手始めに、3 月末の理事会で、「東京書籍との共同プロジェクト」に取り組むことを決定した。
企業との共同作業は、初めての試みであり、事業展開の方法など学ぶことも多いだろうと楽し
みである。e-dream-s は、今後、他の NPO や企業、行政との連携も視野に入れていく。今回の
プロジェクトはその一歩としたい。

会員の皆さんの積極的な参加をお願いします。

「ののちゃん」第 2 弾

辻岡尚子・塚本美紀

昨年末に提出した朝日新聞漫画「ののちゃん」質問状に対して、今年 1 月に朝日新聞社からの
回答が届きました。私達としてはその回答が、質問に答えていないという認識の下、再度、質
問状を出し、朝日新聞社の姿勢を明らかにしていこうと思っています。

原案に対して寄せられた意見をまとめ、4 月 3 日、以下の質問状を郵送しました。
どんな回答が届くか楽しみです。

2001 年 4 月 3 日

朝日新聞社広報室御中

郵便番号 104・0045

東京都中央区築地 5・3・2

特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

代表理事 辻 荘一
副代表理事 中川 房代
ACROSS(アクロス)
会長 河野 良子
副会長 藤澤 俊之

朝日新聞社大阪本社への公開質問状（再度）

2000年12月22日朝日新聞大阪版朝刊社会面(31面)『ののちゃん』の漫画についての公開質問状(2000年12月27日付)への、早速のご回答(2001年1月9日付)有り難うございました。今回のご回答を朝日新聞の公式の見解として、会員と話し合う機会をもちましたところ、御社のお立場やご回答の内容に、若干わかりにくいところがありますので、何点が重ねて質問いたしますことをお許し下さい。尚、ご面倒ではありませんが、質問ごとにご回答下さるようお願いいたします。

以下、御社のご回答を引用して質問いたします。

[また、藤原先生の動向は作中の登場人物に共通の大きな関心事となっており、縁談の話はこれまでも何度も登場しております。一日に一本だけ掲載の四コマまんがではありませんが、子供たちとの間ではくまれたストーリーの中でのひとこまであることをご理解ください。]の部分について、

(質問1)その回のマンガだけを見て意見を述べることは不相当だということでしょうか？

(質問2)また、その回のマンガだけを見て「さっさとヨメにいけー」という児童の発言に対して不快と感じる人間は、マンガを全体として理解しておらず、見当はずれな感想であるということですか？

['さっさとヨメにいけー'との言葉は、ご指摘のように「女性差別にあたる」とお考えの向きもあるかとは思いますが、むしろ親しみを込めた「憎まれ口」であると見ていただく方が自然ではないでしょうか。厳格な父親が、結婚を望む愛娘に向かって「嫁に行ってしまう」と万感の思いで口にする言葉を、子供たちが真似て敬愛する藤原先生に向けている様子にほほ笑ましさを感じる方もいます。]という部分についてですが、

(質問3)『厳格な父親が、結婚を望む愛娘に向かって「嫁に行ってしまう」と万感の思いで口にする言葉を、子供たちが真似て敬愛する藤原先生に向けている』と判断できる根拠、又はエピソードを示していただけませんか？

(質問4)「ほほ笑ましさを感じる方もいます」ということですが、ほほ笑ましさを感じる人がいるから、腹立たしく感じたり、傷ついたりする人がいても許されるということなののでしょうか？あるいは、ほほ笑ましさを感じるべきであり、腹立

たしく感じたり、傷ついたりする人の感受性がおかしいということでしょうか？

(質問5) また、教師と子供たちの人間関係が良好であれば、子供たちの「さっさとヨメにいけー」という言葉は、親しみを込めた「憎まれ口」として許されるべきであると、朝日新聞社はお考えであるということでしょうか？

[また、「学校教育への現状認識がない」とのお叱りもいただきました。この作品はあくまでも小学校に舞台を借りたフィクションであり、ここで展開されるのは、多くの日本人が心のどこかで思い描いている風景であると考えています。校内暴力など学校をめぐる社会問題や時事・流行の話題を、この作品はほとんど取り上げてきていません。私どもは、むしろ殺伐としたニュースにあふれている社会面にあって、ほっとできる空間、肩の凝らないひとときを提供できたならばと願い掲載しております。] という部分について、

(質問6) 「多くの日本人が心のどこかで思い描いている風景」を描くフィクションであれば、登場人物が「さっさとヨメにいけー」という言葉を発しても、問題がないとの認識を朝日新聞社はお持ちなのですか？

(質問7) 「殺伐としたニュースにあふれている社会面にあって、ほっとできる空間、肩の凝らないひとときを提供できたならばと願い掲載しております」というのは、真面目で堅苦しい新聞記事ではなく、肩の凝らない「マンガ」なのだから、いちいち目くじらたてるべきではない、ということでしょうか？

[また、私どもの解釈だけが正しいとは思っておりません。常に読者のみなさまからのお声に耳を澄ましてまいりたいと考えております。多様な解釈が、その作品を育て上げるのだと考えるからです。] という部分について、

(質問8) 「多様な解釈が、その作品を育て上げる」ということですが、私たちの意見は、具体的にどのように「ののちゃん」という作品の今後に反映していただけるのですか？

[「ののちゃん」については、これまで数多くのご意見をちょうだいしてまいりました。例えば、作中の言葉についてです。舞台となっている町は所在地が不明であります。そこで使われている言葉には関西の雰囲気が出ております。これに対して、東日本の読者からは違和感の指摘がありますが、地域や世代によって言葉とは本来多様なものであり、そうした趣旨をお伝えしてご理解をいただいております。] という部分について、

(質問9) 「さっさとヨメにいけー」との言葉に対して、ほぼ笑ましさを感じる読者と不快感を持つ読者がいること、関西の雰囲気のする言葉に違和感を持つ読者とそうでない読者がいることは、同じレベルの事柄であり、多くの読者がいる朝日新聞としては、仕方がないことという意味ですか？

以上9点に関して、朝日新聞大阪本社としての責任ある回答を、文書により、2001年4月18日(水)までに公開質問状提出者 代表 中川房代宛に郵送していただきますようお願いいたします。

「イー・ドリームズ」入会案内書 / 英語版 完成

灰 田 穰

秋に予定しているタイ OJSAT とのプロジェクト、また、今後様々な国とのプロジェクトを進めていくためにも、e-dream-s ホームページの外国語版の説明が必要になってきます。韓国語版はほぼ完成しており、この英語版に加え、今後中国語版も予定しています。

この英語版はホームページにも載せていく予定です。海外に羽撃く e-dream-s です！！

What is “e-dream-s”?

Yuzuru Haida

Member of the board

. E-dream-s functions for the betterment of education, cross cultural communications and globalization as a non-profit organization

E-dream-s is a non-profit organization that affiliates people all over the world who are very much concerned with the betterment of our societies. E-dream-s believes that it is important to build up not only domestic networks but also international networks among those who pay attention to education, intercultural communication, and “globalization” to combine the wide range of forces to propel the betterment of the world. By building up those networks, we share the problem and difficulties that our societies have, and will be able to overcome those difficulties by driving ourselves to the contribution for the betterment of our societies. These networks enable us to cooperate and work together with people from different fields and to share useful information one another for the betterment of education, cross cultural communications and globalization in every part of the world.

. Historical background of e-dream-s

ACROSS (the association of English teachers for cross cultural communication), the founding body of e-dream-s, has been offering opportunities of in-service trainings or seminars for English teachers for twenty-five years. We believe that we have been contributing for the betterment of English education in Japan through these in-service trainings such as voice training, drama play, and speech writing, international teacher exchange programs. The reason that we have been

offering these activities is that we think that these trainings are fundamental requirements for competent English teachers who will be potencies for the betterment of English teaching in Japan.

However, it is true that English education cannot solely be a powerful drive force for the betterment of education. We need to establish an organization that combines social networks of cooperation for the betterment of the society. Here comes e-dream-s into existence.

. **Fundamental concept of e-dream-s**

The fundamental concept of e-dream-s is based on (a) education plays an important role for the betterment of our societies, (b) a new paradigm of educational concept should be built, and (c) a reconstruction of the contents of current education and its implementation should be done for the betterment of our societies.

. **Activities to actualize these fundamental concepts**

E-dream-s will do following activities to actualize these fundamental concepts: (1) Implementing of Education Aids Campaign, (2) Issuing suggestions on Educational Reforms, (3) Building up World Wide Educational Networks, (4) Developing Teaching Materials for English education, (5) Providing Educational Seminars, and (6) Dispatching Professional Personnel Program.

(1) Implementing of Education Aids Campaign: E-dream-s provides educational programs for junior and senior high school students. E-dream-s also provides supports for those who concerned with founding new schools in developing countries especially in Asia in corporation with local people. E-dream-s establishes mutual and cooperative networks with the help of people in the districts such as educational institutions and groups throughout the world to put forward these schemes into actualization.

(2) Providing suggestions for Educational Reforms: E-dream-s provides useful information on our home page by accumulating various opinions concerned with the reform of the education system in Japan. We invite nation wide ideas and opinions for educational reforms to our homepage through the educational networks of teachers, students, parents, and business people. We sponsor educational forums or events and advocate how the ideal education reform should be for the benefit of our societies.

(3) Building up Education Networks: E-dream-s constructs a database with key words of globalization, education, and cross-cultural communication by way of connecting domestic and international networks of various individuals or organizations. With these networks, we will be able to provide educational seminars and events with the cooperative supports from these people.

(4) Setting up Teaching Material Database ‘e-archive’: E-dream-s sets up

'e-archive' that provides free teaching materials for teachers of English on the web page. E-archive enables teachers of English to find **day-to-day use teaching materials** and is easy to access to what teachers need for their lessons. E-archive provides **1,000 teaching materials** and lots of useful **tips and ideas to develop original teaching materials** for teachers. E-archive invites teachers who are interested in loading up their original teaching aids or materials on our **'e-archive'** for love. These up loadings are basically free of charge in order to contribute for the betterment of English education in the world.

(5) Developing Teaching Materials for Communicative Language Learning: E-dream-s develops teaching materials for English teaching at junior and senior high schools. These teaching materials deal with English and cross-cultural understanding. E-dream-s also accepts to design, produce, and sell these newly developed teaching materials.

(6) Producing Educational Seminars: E-dream-s produces educational seminars and study tours. These seminars and study tours are concerned with education, cross-cultural communication, and globalization. We will invite world famous scholars and experts in the concerning fields.

(7) Dispatching Professional Personnel Program: E-dream-s dispatches experts in the field of education, cross-cultural communication, and globalization. These experts are to be sent to schools or companies by requests. E-dream-s invites those who are specialists or experts in these fields on our home page.

. **Memberships:**

(1) Full membership

Individuals, groups and companies that agree with the fundamental concepts of 'e-dream-s' and take participate in the activities of our organization. Full membership guarantees the right to vote for the agendas submitted at the annual conference of 'e-dream-s'. E-dream-s offers special admission fee rates for those who own the full membership.

(2) Supporting membership

Individuals, groups and companies that agree with the fundamental concepts of 'e-dream-s' and take participate in the activities of our organization. Supporting membership guarantees to take part in the annual conference and give ideas or opinions regarding the agendas submitted at the conference. E-dream-s also offers special admission fee rates for those who own the supporting membership

. **Admission fee and Annual fee**

		Admission fee	Annual fee
Full membership	Individual	¥ 5,000	¥6,000

	Group	¥10,000	¥6,000
Supporting membership	Individual	¥5,000	¥3,000
	Group	¥10,000	¥3,000

Reference: Emi Haraguchi, director of public relations

E-mail: haraguchi@e-dream-s.org

Bank account: Sumitomo Bank, Itachibori branch (branch code 123)

Futsuu 1190345 e-dream-s Naoko Tsujioka

報告1:「トヨタ財団」助成金申請

昨年11月に行った「トヨタ財団」への2件の助成申請(1、写真アーカイブ事業 2、モンゴルツアーの報告集出版)は、残念ながら選考にもれませんでした。またの機会に期待しましょう。

報告2:タイ・チェンマイ OJSAT とのプロジェクト

日程が決定しました。スケジュールなどは、決定次第お知らせします。

日程 : 2001年10月20日(土)~27日(土)

来日人数 : 12名

訪問地 : 主に関西地方(大阪、京都、奈良、神戸、広島など)

*OJSAT は、<http://www.OJSAT.or.th/>を参照して下さい。

報告3:第5回理事会

3月24日、第5回理事会を開催しました。

- 1、日時 2001年3月24日(土)19時40分~21時10分
- 2、場所 「セミナーハウス 松山館」(東京都練馬区練馬2-27-28)
- 3、出席者 理事:辻、中川、藤澤、飯田、辻岡、阿部、志村 7名 監事:丸野
(委任状:山本、灰田、山田 3名)

4、次第

司会 (中川 房代・副代表理事)

- 1、開会宣言(司会者)
- 2、代表理事挨拶(辻 莊一・代表理事)
- 3、理事会の成立状況報告(司会者)
- 4、議長選出(司会者) 議長:中川 房代・副代表理事

5、 議事（議長）

1、 議案

第1号議案 「教育用写真アーカイブ事業」

東京書籍との共同プロジェクト承認の件（辻、中川）

第2号議案 「教育リンク集」計画推進の件（辻、中川）

第3号議案 「e-dream-s 運営に関する必要事項」に関する件（中川）

第4号議案 「NPO 税制に関する要望書」の採択に関する件（中川）

2、 報告

タイ・チェンマイ OJSAT とのプロジェクト進捗状況報告（辻）

3、 意見交換

マスコミ・ウォッチ・ドッグ「ののちゃん」への質問状 第2弾（辻岡）

e-dream-s の今後のあり方について（中川）

6、 理事会議事録署名人の選出（議長）

7、 閉会宣言（司会者）

第1号議案 「教育用写真アーカイブ事業」；東京書籍との共同プロジェクト承認の件

(1) 提案

- e-dream-s として、「教育用写真アーカイブ」用の写真を、東京書籍「東書E ネット」に提供（販売）する。
- 枚数や販売価格、その他詳細については、代表理事、副代表理事の判断で進め、理事、会員には定期的に進捗状況を報告する。
- e-dream-s としての「教育用写真アーカイブ事業」は、「東書E ネット」とは独自に、当初の計画通り進める。

(2) 経過

2月 辻代表理事の職場に来た東京書籍の幡野氏と「東書E ネット」「写真アーカイブ」の話になる

2月24日 SAWY で辻代表理事から報告があり、副代表理事、顧問も交えて一度会って話をするにすることにする

3月11日 東書の幡野氏と会う（辻、中川、藤澤、辻岡、井川）

4月4日 「東書E ネット」企画室長、及び常務と会う予定

(3) 計画の内容

- e-dream-s、ACROSS で収集する「写真アーカイブ」用の写真を東京書籍が買い取る。
- 「東書 E ネット」にキャプション付きの写真が掲載される。
(写真には「e-dream-s 提供」の文字を入れてもよい)
- 東書に提供した写真も、我々独自の「写真アーカイブ」で利用できる(著作権の問題はない)。
- できるだけ早く始めたい(来年度中)。
- 写真を使用目的別に分類することが望ましい(単価アップ)。
- 4月4日に責任者と会い、話をした上で、具体化し、進めていく。

<参考>

——「東書 E ネット」 <http://www.ten.tokyo-shoseki.co.jp>

(4) 提案理由

- 写真販売によって資金が確保される。今だ収入源のない e-dream-s 財政にとっては最初の事業収入となる。この資金によって、今後の事業を広く展開できる。
- 「写真アーカイブ」の進行の推進力となる。外部団体との締め切りのある仕事になるので我々の写真の整理が進む。
- 「写真アーカイブ」の実験ケースとなる。「写真アーカイブ」の利点・欠点・難しさなどを見直すチャンスになる。どういう写真がいいのか、どういうキャプションが必要か、検索の方法の善し悪し、などの情報を得ることができ、「写真アーカイブ」に生かせる。
- 東書に販売したキャプション付き写真も「写真アーカイブ」に使用できる。作業には時間と手間がかかるが、1つの作業が2つに利用できるので一石二鳥となる。
- 東書の教科書のシェアは業界でも上位にあり、「東書 E ネット」に掲載する我々の写真に「e-dream-s 提供」の文字を入れ、リンクを張ることにより、e-dream-s の宣伝や知名度のアップにつながる。
- 「東書 E ネット」と「写真アーカイブ」は、ある意味で、競合することになるが、「東書 E ネット」での経験をもとに、より多くの写真、より使いやすいものにしていくべく努力することが必要である。
- 特定非営利活動法人は、単に自己犠牲的に、或いは自己満足だけで事業を進めてはいけない。しっかりとした事業計画と収支計画のもとに賛同者を集めるものでなければならない。収入を上げてこそ、我々が NPO 法人を作った意味がある。利益を求める企業体との共同プロジェクトを通じて、我々自身がその理念やノウハウに触れ、学んでいくことは、今後の事業推進のための糧となる。

第2号議案 「教育リンク集」計画推進の件

(1) 提案

- 第1号議案に関連して、同じく東京書籍から「教育リンク集」の共同プロジェクト

の提案が来ている。e-dream-s として、取り組む方向で進めていく。責任者は、辻。

(2) 提案理由

- 「教育リンク集」も「写真アーカイブ」と同様、未知の分野であり、チャンレンジである。
- 2002 年から始まる新学習指導要領に向けて（その是非はともかく）「総合的な学習」「選択教科」に関する資料の学校現場での需要、特に小学校教員のニーズは大いにあると思われる。
- 「リンク集」を作るにあたり、どういうリンクを選択するのか、どういうコメントを載せるのか、は作成者の思想性を反映する。我々の教育に関する考え方、英語や国際理解教育に対する考え方を「リンク集」を通じて、表現し、アピールできる。
- 我々自身も「リンク集」を作る過程で、リンクの内容を学習できる。
- コンピュータ、特にインターネットや検索の技術の向上にもつながる。

(3) 計画

- 東書側の希望は小学校の英語教育から、ということだが、具体的には4月4日に東書の責任者と会うことになっており、詳しい話、今後の進め方などを決定していく。
- 代表理事責任のもと、e-dream-s でプロジェクトチームを作って、作業をすすめる。
- 理事、会員には定期的に進捗状況を報告する。

第3号議案 「e-dream-s 運営に関する必要事項」に関する件

(1) 提案

- 定款 47 条の規定（法人の運営に必要な事項は理事会の議決を経て、代表理事が別に定める）に基づき、今後様々な企画、プロジェクトの執行に関しては、担当（理事）の責任のもと、プロジェクトごとに事務局（タスクチーム）を編成し、推進していくこととする。
- 担当（理事）の選任については、代表理事に委任する。

(2) 提案理由

- 今後、企画やプロジェクトが多くなることが予想され、理事会の議決を待っての仕事開始は、時間のロスができ、能率が悪くなる。
- e-dream-s の組織・運営の確立に向け、理事会の権限や事務局の権限の整理をする。事業の決定や大枠は理事会で、その事業の担当人事や細かい計画は事務局（責任：事務局長・・・副代表理事）で行っていく。

第4号議案 「NPO 税制に関する要望書」の採択に関する件

(1)提案

- e-dream-s 理事会で「NPO 税制に関する要望書」を採択し、国会、財政金融委員会、各政党、国会議員（特に NPO 議員連盟所属議員）に送る。

(2)提案理由

- NPO 法人としての態度表明
- 国会への圧力
- 社会における今後の NPO のあり方、存在意義について考える
- 他の NPO 団体との協同

(3) 要望書

特定非営利活動法人「子どもに無煙環境を」推進協議会作成の要望書に同意し、e-dream-s も連名の上、提出する。

「NPO 支援税制の認定要件を現実的な内容にしてください」

参議院財政金融委員会で、近々 NPO 支援税制が審議されるとのことですが、以下の問題点等を十分ご審議いただき、真摯に努力を積み重ねている多くの NPO 法人が、国民や企業・団体などから広く寄附援助を受け、社会をより良くしていく事業が自立できるような内容の NPO 支援税制としていただけますよう、お願い申し上げます。

今回の支援税制案は、付記の「認定 NPO 法人の要件」で認定を受けることのできる NPO 法人は皆無と思われるほど現実遊離した、支援税制にはほど遠い内容となっています。認定要件には、全ての NPO 法人を認定法人にしないためとしか考えられない要件が列挙されています。この要件をクリアして認定を受けることのできる NPO 法人は皆無であろうことが誰が見ても予見される NPO 支援税制など、支援税制の名に全く値しないのではないのでしょうか。

本会の活動の立場から、認定要件について以下の問題点を指摘させていただきます。多くの NPO 法人が認定基準をクリアできるよう、ご検討ご審議をお願いし、お力をお願いいたします。

1. 総収入金額のうちに占める寄附金及び助成金の額（寄附金総額）の割合が 1/3 以上であること。

（ほとんど不可能）

2. 寄附金総額の 2% を超える寄附額は算入しない。

3. 3000 円未満の寄附は算入しない。
4. 国や地方自治体などの補助・助成金は算入除外する。
5. 役員や社員及びその親族の寄附は総額の 1/2 以上は算入しない。
6. 寄附者の名前・住所等を閲覧に供する（匿名希望の場合もある）。
7. 青色申告法人と同等の記帳（複式簿記）が行われていること。
（NPO 法で義務づけられていないのにおかしい）
8. 認定の有効期間は、認定を受けた日から 2 年間とする。
（7 - 8 項は NPO 法人には過重な負担を強いる）

2001 年 3 月 24 日

特定非営利活動法人 イー・ドリームズ 理事会
代表：辻 莊一（代表理事）

* この要望書を 3 月 26 日、参議院財政金融委員会の委員 21 名にファックスで送りました。

< NPO 法・税制を巡る情勢 >

「シーズ メールマガジン」から抜粋

ザ・COVER STORY

まず申請数が問われる新税制

NPO 支援税制を含む「租税特別措置法の一部を改正する法律」と、その施行細目を定めた「租税特別措置法施行令の一部を改正する政令」が、3 月 30 日に公布された。新聞などでもほとんど報道されなかったし、財務省のホームページなどにも掲載されていないので、ほとんどの人が気がつかなかったようだ。

この政令で、新しく明らかになったことで大きなこととしては、「認定 NPO 法人の認定を受けようとする団体は、2 事業年度を経過していなければならない」ということだろう。

政府の要綱や与党 3 党の大綱では、「2 年間の事業実績が必要」とされていた。

これが、純粋にカレンダーで数える 2 年間と読むなら、今年 10 月 1 日に申請受付が始まるが、そこで申請できる団体は、1999 年 9 月 30 日までに認証を受けた法人ということになる。その数は、約 750 法人だ。

しかし、これが「2 事業年度の実績」となると、所轄庁に 2 回事業報告書や会計報告書を提出していればいいということになる。多くの法人は、最初の事業年度は、1 年に満たないがそれでもいいということのようだ。極端に言えば、法人化して 1 年と 1 日を経過している団体でもいいということになるのだろう。

多くの NPO 法人の事業年度は、4月から翌3月までか、1月から12月までの場合が多い。事業年度が4月から翌3月までの NPO 法人ならば、2000年3月までに認証を受けていて、きちんと報告書さえ出していれば、認定 NPO 法人を受けるための申請権を持っていることになる。1月から12月までの事業年度の NPO 法人ならば、ならば、1999年12月までに認証を得ていて、きちんと事業報告書を出していれば、申請権を持っている。

各団体ごとの事業年度がどうなっているのかは分からないので、ほとんど4月から3月の事業年度の法人であると仮定して考えると、対象となる団体の数は、約1600法人になる勘定だ。より多くの法人が申請できるようになったことは、良いことだ。

問題は、どれだけ申請して、どれだけ認定を受けられるかということだ。松原は、現在各地で、制度の説明をして回っているが、認定要件があまりにハードルが高いので、「自分たちははじめから無理」とあきらめムードも漂っている。

東京を除くと各地の勉強会で、認定が受けられそうと答えた団体は、勉強会に参加した団体中一団体もない。それどころか、「申請にチャレンジしますか」と聞くと、ほとんどの団体が「それも難しい」と答えている。

申請権を持つ団体は多くなった。
それだけにどれだけ法人が申請まで行けるのか。
認定を受けられる団体数がどれだけになるかという議論の前に、どれだけ団体数が申請できるのか、という申請数が問われることになりそうだ。（松原明）

詳細はシーズホームページで！ <http://www.npoweb.gr.jp/>

英国ツアーのお知らせ

8月4日(土)から8月12日(日)の日程で「英国ツアー」
(主催:ACROSS、後援:e-dream-s)が行われます。

スケジュールの概略は、以下の通りです。

8/4～5 Royal Agricultural College (Cirencester)
8/6～7 The Alveston Manor (Stratford-upon-Avon)
8/8～9 Oxford
8/10 Heathrow

* 詳細の問い合わせ、参加申し込みは実行委員会 朴 智美まで。
e-mail : jpark@io.ocn.ne.jp

ホームステイ・ビジット先の紹介のお願い

「英国ツアー」の日程のうち、Oxford 周辺で、
8月8日と9日(2日または1日)のホームステイ、ホームビジット先を
募集しています。

以前イギリスに行った時の友人、ALT など、お知り合いで
ホームステイやホームビジットを受け入れて下さるご家庭をご存知の方、
あるいは紹介して下さる方を探しています。情報をお待ちしています。

* 連絡先: 実行委員会 藤澤 俊之まで。
e-mail : fujjisawa@e-dream-s.org

「東書・写真プロジェクト」について

(4月4日、東書とe-dream-sとの打ち合わせ事項より)

1、 写真について

- * 枚数：アジアの国を中心に、写真またはネガで 660 枚
(モンゴル、中国、ネパール、韓国、インドネシア、タイ、台湾、マレーシア、シンガポール、イギリス、フランスなど)
- * 説明文をつける
写真のタイトル
撮影した年(西暦)月
撮影した場所：国と都市名(町名、道路名)
写真の説明(1行程度でよい、憶測や主観、感想は入れない)
- * 期間：4月末から9月末まで、各月末に100~150枚ずつ渡す
- * e-dream-s 会員からの写真提供のみにする(外部募集はしない)

2、 具体的には

- ・ 4月末までにモンゴルの写真を150枚
既にスキャンしてあるものを選ぶ。説明の抜けてる箇所を記入
(前原から写真の持ち主に依頼)
- ・ 5月6月7月は、100枚ずつ、9月は210枚
- ・ 大阪、東京、広島 山本貴子が回収